

2025年11月28日

地域産業を変えるエコシステム・デザイン —共創で拓く新たな水産業の未来—



1. はじめに	P2
2. 日本の水産養殖業の現状	P4
3. 愛媛・宇和島養殖の現状と可能性	P6
4. 現状の課題（ESG視点）	P9
5. 共創モデル構築へ	P10
6. 宇和島プロジェクトの取組みと共創成果への期待	P13
7. さいごに	P15

1. はじめに



1. はじめに



画像は生成AIにより作成

世界に誇る水産養殖の地、宇和島。

地域と企業がともに未来を創る—

私たち金融機関は、

その挑戦を次世代へつなぎます。

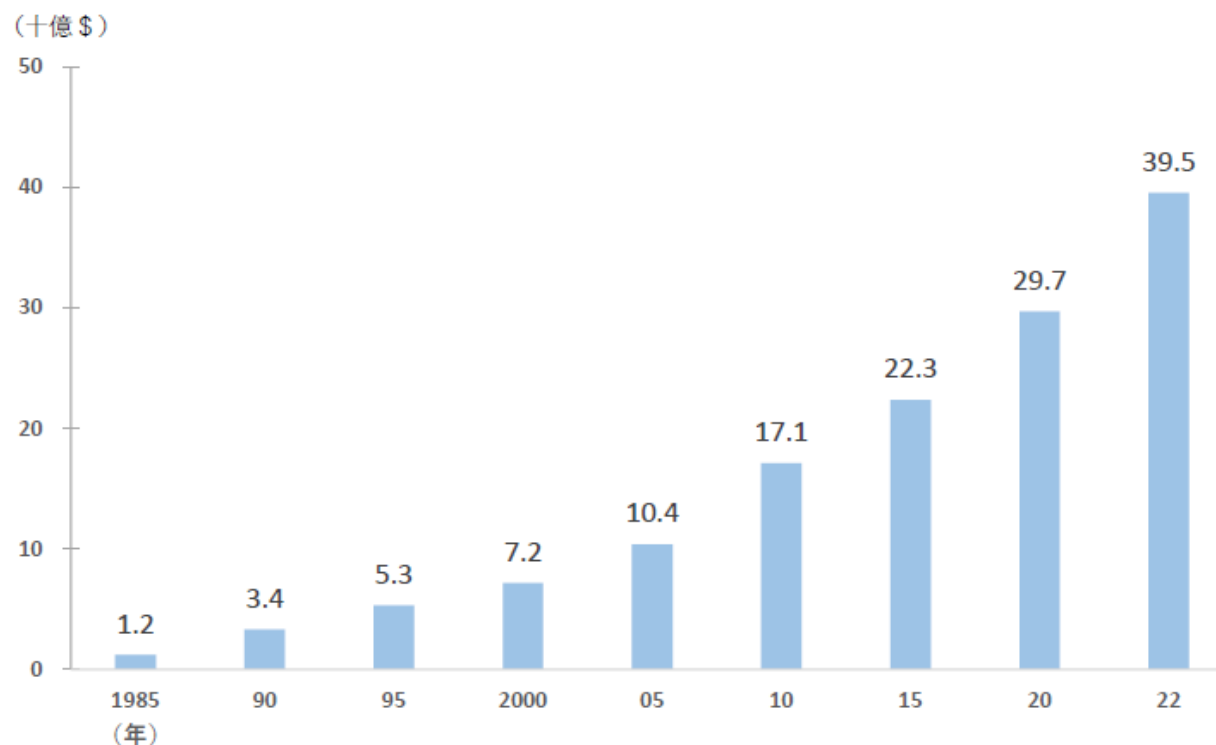
2. 日本の水産養殖業の現状



01 海外では水産養殖業が成長産業

水産養殖業は世界で急成長。人口増加・健康志向を背景にアジア・欧州で技術革新と流通整備が進展。

世界の海面魚類養殖業の産出額推移



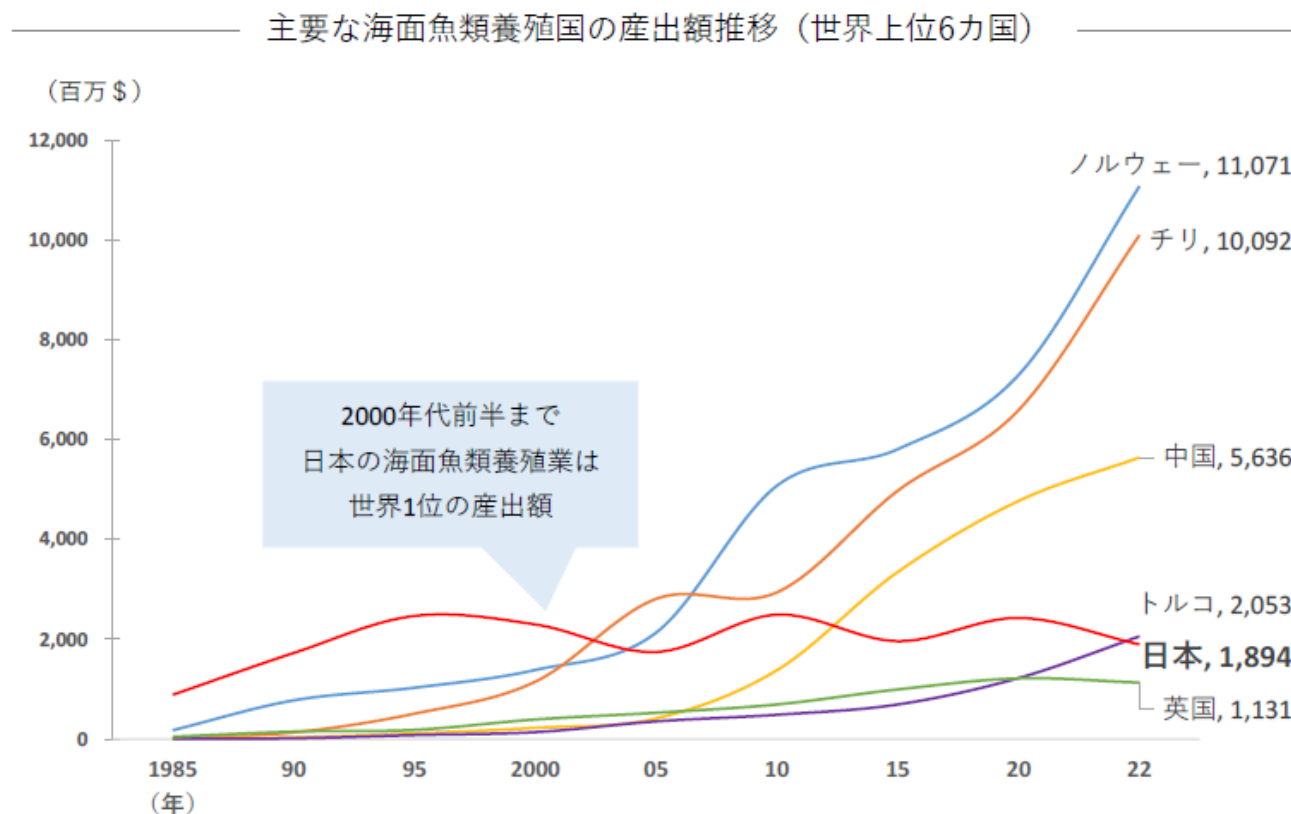
出所：日本政策投資銀行「養殖業の新たなフードチェーン構築に向けた基礎調査～愛媛県のマダイ養殖を例に～」(2025年4月)

2. 日本の水産養殖業の現状



02 世界から見た日本のポジション

かつて世界一だった日本の海面魚類養殖は、世界的な急成長の中で**横ばい**にとどまっている。



出所：日本政策投資銀行「養殖業の新たなフードチェーン構築に向けた基礎調査～愛媛県のマダイ養殖を例に～」(2025年4月)

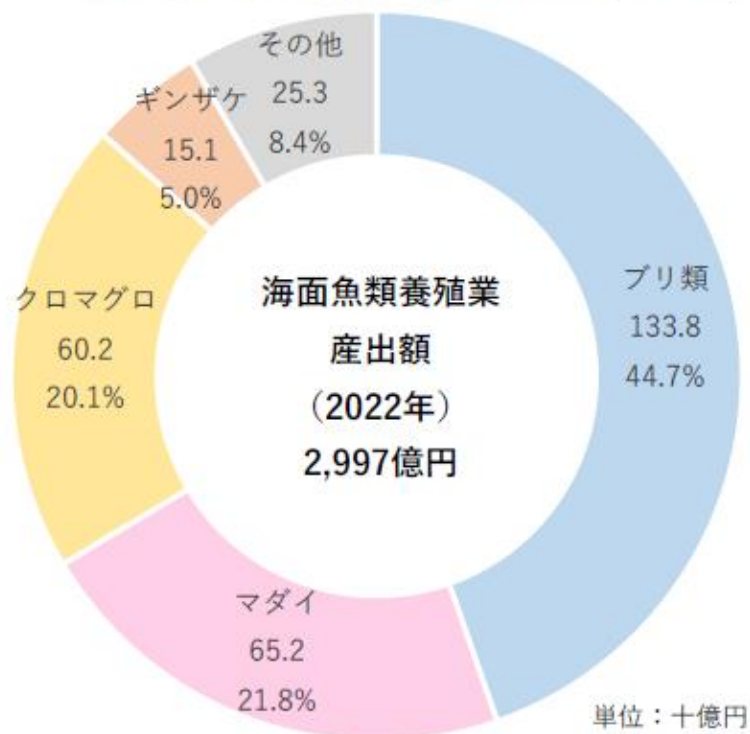
3. 愛媛・宇和島養殖の現状と可能性



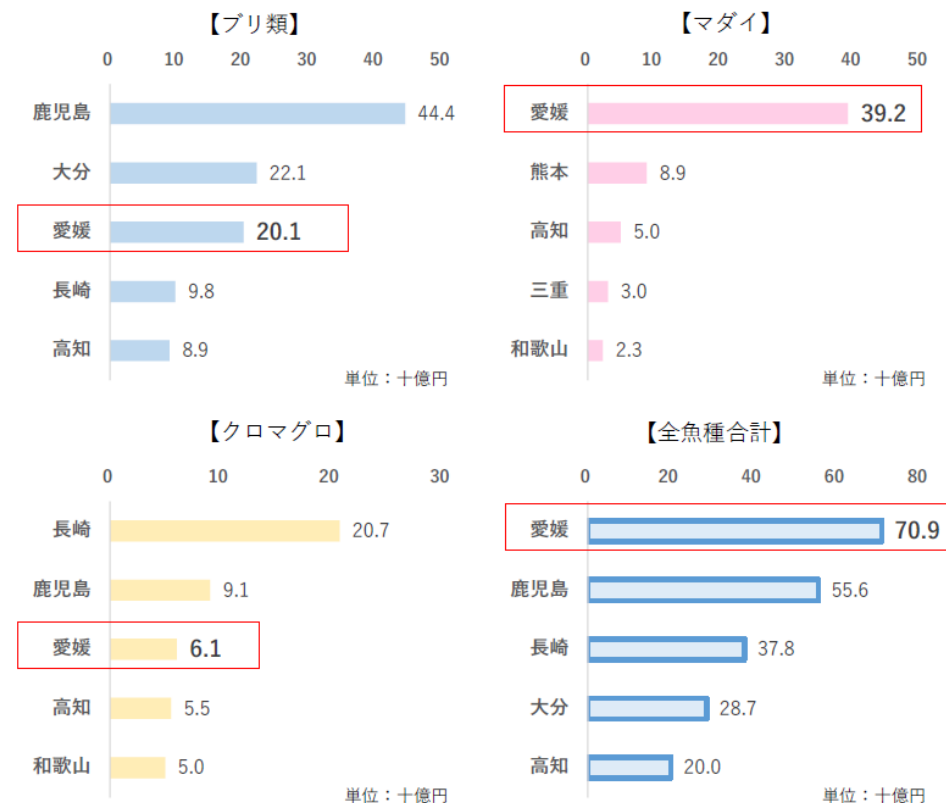
日本の水産養殖業を牽引する愛媛県の実績

水産養殖において愛媛県は全国を牽引する存在である。世界的競争力確保の鍵は愛媛県にあり。

—— 海面養殖業産出額の魚種別構成（2022年）

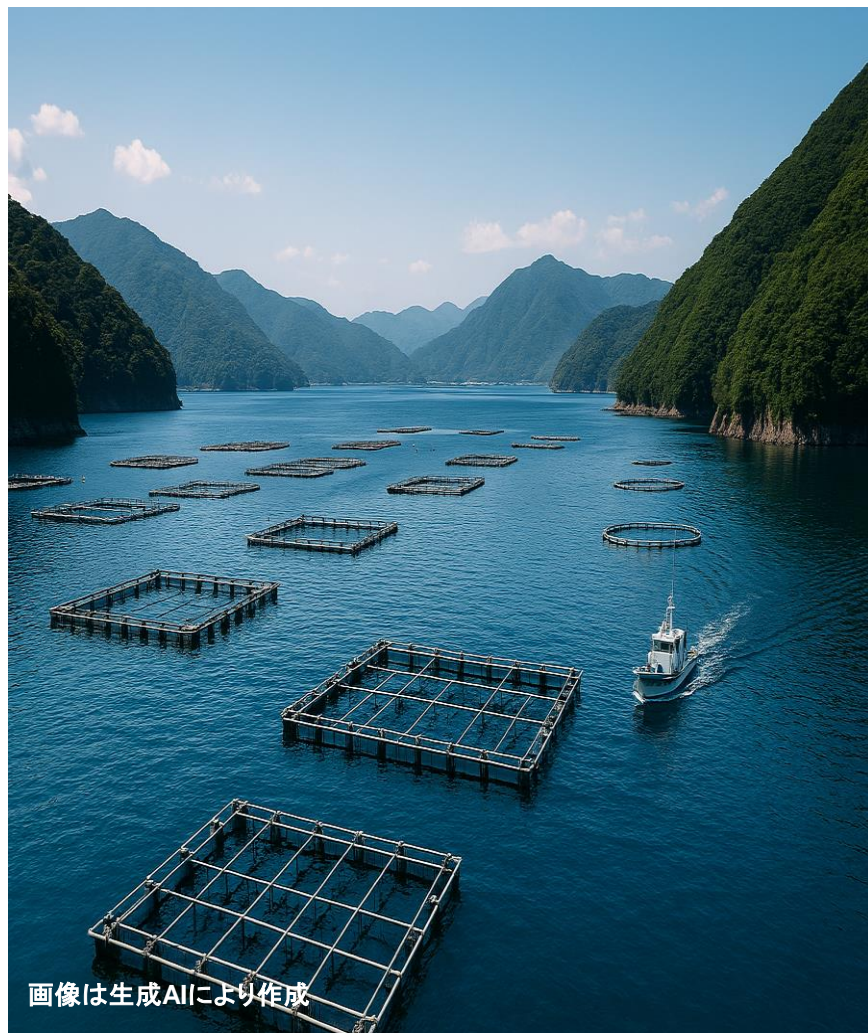


—— 都道府県別の海面養殖業産出額（2022年、各項目上位5都道府県） ——



出所：日本政策投資銀行「養殖業の新たなフードチェーン構築に向けた基礎調査～愛媛県のマダイ養殖を例に～」(2025年4月)

3. 愛媛・宇和島養殖の現状と可能性



画像は生成AIにより作成

01 技術の確立・スマート化

近年、AIやIoTなどの先端技術を活用した「**スマート養殖**」が進展しており、水産養殖業の高度化が進んでいます。これにより、魚の品質向上と生産効率の最適化が実現され、宇和島産の養殖魚は全国的にも高い評価を受けています。

02 好立地・自然条件

宇和島地域のリアス式海岸に広がる穏やかな海域と豊かな水質は、養殖に非常に適した環境を提供しています。潮流や水温などの条件も、養殖魚の健全な成長に理想的です。こうした、**他地域では容易に再現できない恵まれた自然環境**と高度な養殖技術との調和が、宇和島の水産養殖業における大きな強みとなっています。

3. 愛媛・宇和島養殖の現状と可能性



画像は生成AIにより作成

03 歴史が物語る強み

宇和島の水産養殖は、真珠養殖から始まり、やがて魚類養殖へと発展してきました。この地域では「**海と共に生きる知恵**」が世代を超えて蓄積され、受け継がれた文化が産業の基盤となっています。

04 知見が集まる産業

大学やスタートアップ、行政など多様な主体が連携し、水産先進地域として知見が結集しています。こうした環境により、**水産イノベーション**を世界へ発信できる素地が整っています。

4. 現状の課題（ESG視点）



日本の水産養殖業は世界的に評価されてきましたが、その成長は近年、横ばい傾向にあります。業界を牽引してきた宇和島地域も、強みがある反面、課題も抱えています。

環境【E】

- 水質汚染
- 飼料の持続可能性
- 海水温上昇や異常気象
- 赤潮・病害の突発的発生

社会【S】

- 労働環境の改善
- 地域雇用創出
- トレーサビリティ確保
- 地域人口減少、担い手不足
- 国際市場の価格変動

ガバナンス【G】

- コンプライアンス遵守
- サプライチェーンの健全化
- 国際規制の急変
- 不可抗力による事業中断

5. 共創モデル構築へ



01 課題があるからこそ、競争と共創が必要

水産養殖業には多くの課題があります。真の成長を目指すには「**共創**」が不可欠です。

02 既存 × 新進の**共存**で、自律的な成長へ

宇和島地域を支えてきた既存業者に、新たな発想や取り組みを行う新進企業が加わることで、互いに補い合いながら課題を解決し、産業構造を強化していきます。

03 **共創**こそが地域の持続的成長のカギ

競争を通じて産業と地域の力を高める――それが持続可能な成長の原動力です。
そのきっかけとなるのが、宇和島プロジェクトによる新しいビジネスモデルです。

5. 共創モデル構築へ



- | | |
|---------|-------------------|
| 1. 社名 | 株式会社 宇和島プロジェクト |
| 2. 所在地 | 愛媛県宇和島市弁天町2丁目1-66 |
| 3. 事業内容 | 水産商社 |
| 4. 資本金 | 28,000千円 |
| 5. 設立 | 2010年10月5日 |



5. 共創モデル構築へ



マーケットイン戦略

- 市場や顧客ニーズを起点に価値を創出する戦略。
- 需要に沿った商品提供で顧客満足を高め、持続的な競争力を確保できる。

プロダクトアウト戦略

- 企業の技術や独自性を起点に革新を生み出す戦略。
- 差別化された価値を市場に提案し、競争優位を築ける。

共創モデル 構築へ

リレーションシップ マーケティング

- 顧客との長期的な信頼関係を重視する戦略。
- 安定した取引と高いロイヤリティにより、収益基盤を強化できる。

トランザクション マーケティング

- 販売促進を重視する戦略。
- 成果を素早く生み出し、機動的な収益確保が可能。

6. 宇和島プロジェクトの取組みと共創成果への期待



01

金融支援

生産規模拡大へ向けた融資

【成果】

- ・生産能力：最大3倍に増加
- ・総売上高：約121%に増加
- ・海外輸出売上高比率：3% → 8%
- ・最新設備導入で高品質商品を提供

02

自治体連携

愛媛銀行・宇和島市・クラダシで 食品ロス削減と特産品PRの連携協定

【成果】

- ・社会貢献型インターンで学生受け入れ
- ・商品PR・知名度向上
- ・消費者庁、優良事例表彰特別表彰受賞

03

販路開拓

第二地方銀行協会ネットワークで冷凍寿司 （新商品）県外小売業者との商談会を設定

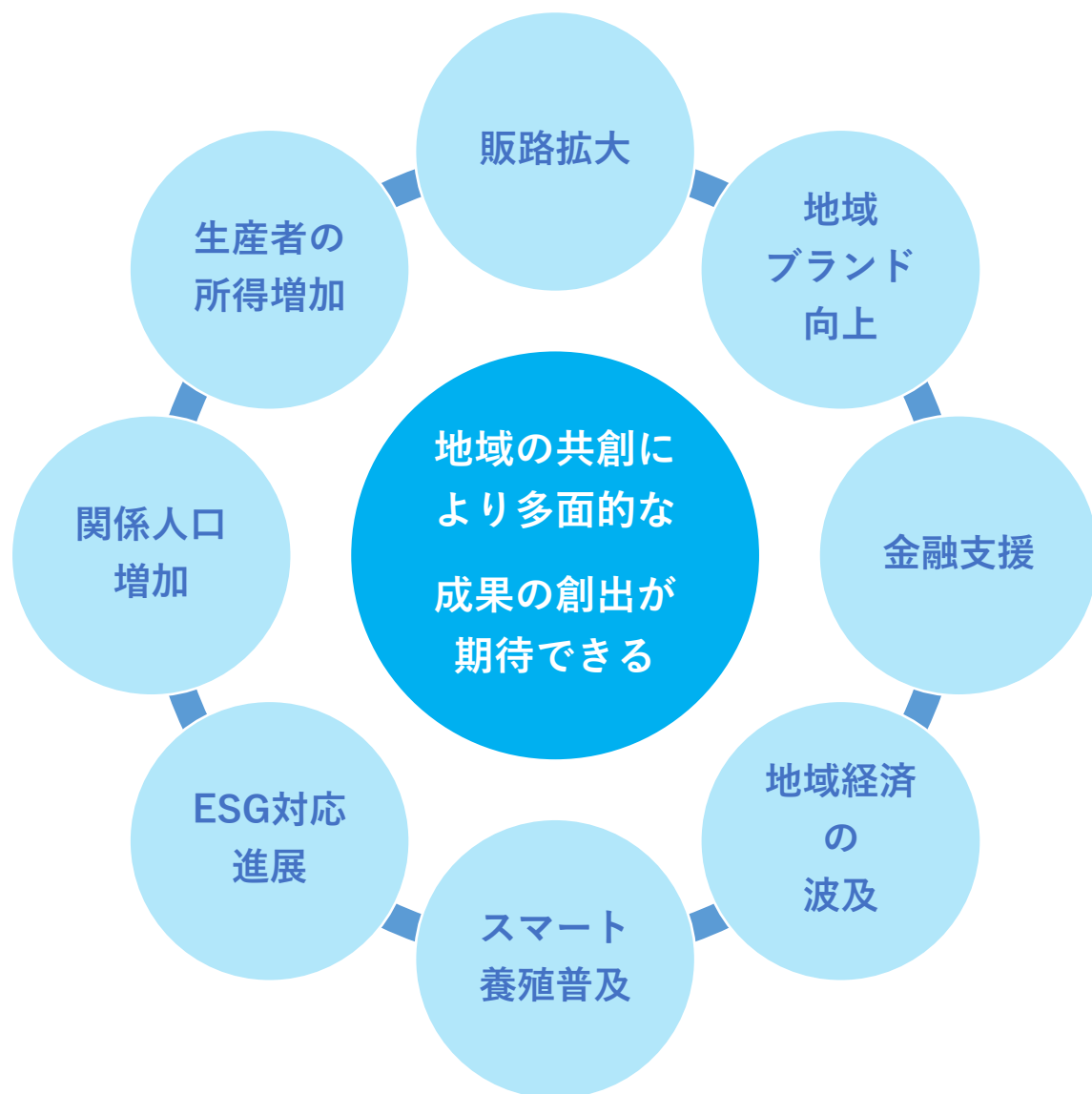
【成果】

販路拡大海外輸出売上高の増加に寄与

6. 宇和島プロジェクトの取組みと共創成果への期待



画像は生成AIにより作成



7. さいごに



課題の本質は数字だけでは見えない

人口減少や企業数などの統計だけでなく、地域ごとの経済の成り立ちや産業構造、そして現場の声を踏まえた要因分析が不可欠です。

地域銀行の強みは「伴走」と「理解」

地域とともに歩んできた銀行だからこそ、現場の実態を深く理解し、産業構造の変革を支援できます。各市町村ごとに課題は異なるため、一律の支援では解決は望めません。

宇和島の事例 現場と共創する挑戦

水産養殖業の現場課題（担い手不足、販路制約、ESG対応）に寄り添い、マーケットイン型戦略やリレーションシップマーケティング等を支援し、地域とともに持続可能なモデルを構築する取り組みです。